

## 2021年12月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている」と、前回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横這い圏内の動きとなっている」から上方修正しました。判断の変更は本年2月以来、上方修正は昨年9月以来です。
- 需要項目ごとの判断でも、個人消費について「下押し圧力が依然として強いが、一部に持ち直しの動きがみられている」、観光についても「引き続き厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している」と上方修正しました。その他の項目には、変更はありません。
- 雇用や金融面については、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（12月調査）は、全産業の業況判断D1が+5（9月+7、▲は「悪い」超過）と、前回調査比やや悪化しました。6期振りの悪化ですが、5期連続の「良い」超過となりました。製商品・サービス需給判断は、今回、供給超幅が若干拡大（9月▲7→12月▲8、▲は供給超過）しましたが、需給バランスは大きく崩れてはいません。また、生産・営業用設備判断（9月±0→12月±0、▲は不足超過）も、前回に続き過不足なしの状態となりました。雇用人員判断（9月▲30→12月▲37、▲は不足超過）は、前回に続き不足超幅が拡大しました。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、11月、前年を若干下回りました。引き続き巣ごもり需

要がみられる中、食料品が底堅い動きを維持しているほか、衣料品も外出機会の増加を映じて、低水準ながら持ち直しの動きがみられています。大規模店舗では、引き続き来店客数、売上ともに回復の動きがみられています。また、家電販売は、エアコンが好調を維持しているものの、家電需要全般への一巡感から、全体としては増勢が鈍化しています。

- 新車登録台数は、11月、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回り、3か月連続ですべての区分で前年を下回りました。引き続き部品不足を背景としたメーカーからの完成車供給の遅れが響いています。もっとも、自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できており、販売地合い自体は堅調です。受注から納車までの期間の長期化から、引き続き受注残が積み上がる傾向にあります。

## ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、11月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。2か月連続の前年比プラスです。緊急事態宣言解除後の持ち直しの動きが引き続きみられています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、11月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで21か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、11月、前年を下回りました。前年はまだGo To Travel事業の効果がみられたために前年対比ではマイナスとなりましたが、自治体による需要喚起策の効果もあって、緩やかに持ち直しています。旭川市内のホテル客室稼働率は、計数が揃わず正確な数字は掴めていませんが、11月は前年並みないし前年を幾分上回った先が相応にみられたようです。こちらも自治体の需要喚起策の効果もあり、緩やかな持ち直し傾向にあります。
- 各地観光施設の入込みは、11月、利尻・礼文フェリーが前年を上回った

ほか、旭山動物園もほぼ前年並みとなったものの、層雲峡、ウトロ温泉、博物館網走監獄が前年を下回ったことから、合計でも前年を下回りました。各施設によって多少差はみられますが、全体ではこちらもホテル・旅館宿泊客数と同様に緩やかに持ち直しています。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、11月は上川、宗谷、オホーツクとも前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2021年4月以降の累計では、上川が前年を上回ったものの、宗谷、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回っています。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、10月は持家が前年を幾分上回ったほか、貸家、分譲も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。基調としては、持家が持ち直しているほか、貸家は高めの水準で推移しています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

## ■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、10月、稚内、網走が前年を上回ったものの、旭川、北見が前年を下回りました。旭川は1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、全体でも1倍超えとなりました。1倍超えは6か月連続です。新規求人数は、10月、北見が前年を下回ったものの、旭川、稚内、網走が前年を上回ったことから、4つの職業安定所の合計でも、前年を上回りました。もっとも、これは、前年の新規求人数がコロナ禍で落ち込んだことが影響しており、引き続き前々年を下回っています。

## ■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、11月、前年を上回りました。11月まで33か月連続で前年を上回っています。

## ■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（12月調査）の事業計画では、2021年度の売上高、経常利益、当期純利益は、いずれも増加する計画（前年度比：売上高+1.7%、経常利益+6.0%、当期純利益7.0倍）です。9月調査からは、売上高、経常利益は上方修正（修正率：売上高+2.6%、経常利益+0.3%）されていますが、当期純利益は下方修正（同：▲1.2%）されています。この間、設備投資計画は、大幅減少の計画（前年度比：▲54.0%）となっており、9月調査比でも下方修正（修正率：▲3.9%）されています。
- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き感染症の動向とその影響がポイントになると考えられます。感染抑制と経済活動の両立が進む中で、自治体の需要喚起策にも支えられて、対面型サービス消費を中心に持ち直していくとみられますが、変異株の動向など、不確実性が高く、下振れリスクがある点には注意が必要です。具体的には、①感染抑制と消費活動の両立が進む中での観光、消費の動向、②各種価格の上昇が企業収益や消費マインドに与える影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上